

# あした天気になあれ♪

～男も女も暮らしやすく～

連載第5回

## 「育てる男が、家族を変える。社会が動く。」

このフレーズは、厚生労働省のイクメンプロジェクトのキャッチコピーです。「子育てする父親がかっこいい」そんな時代になりました。「イクメン」という言葉は、子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性のことをいいます。ちなみに子育てをするおじいちゃんのことには「イクジイ」といいます。イクメンが増えれば、妻である女性の生き方や家族のあり方が大きく変わります。子育てを通じて、人脈や活動範囲も広がることでしょう。そして、職場のあり方や社会全体ももっと豊かに変わっていくに違いありません。

さて、女性の育児休業は当たり前になりましたが、男性の育児休業もあることをご存知でしょうか？

- ① 3歳までの子を養育する労働者が希望すれば、短時間勤務制度（1日原則6時間）の活用や残業の免除ができます。
  - ② 小学校就学前の子どもの看護休暇制度は、子どもが一人なら年5日、2人以上なら年10日まで取得できます。
  - ③ 育児休業制度は父親も母親も1歳に達するまでの1年間取得できますが、父親と母親が続けて取得する場合は1歳2ヶ月まで期間が延長されます。
- ※ 育児に関わる休業制度の利用については各職場でご確認ください。

では、男性が育児に関わるメリットは何でしょう？

### ◆安らぎのある楽しい家庭に

- ・男性が家事、育児に参加することで家庭が円満になり、妻や子ども、家族との距離が縮まります。また、女性の愛情の配分は子どもが生まれると夫から子どもへと移行しやすいと言われていますが、子どもの加齢に伴い夫への愛情が回復するかしないかは、「子育てを夫と一緒にやった」かどうかが大きく影響するようです。

### ◆心の成長

- ・子どもの心は人との関わりの中で育っていきます。体の成長のように目に見えてわかるものではないけれど、その成長は「自己主張」や「言葉」、「遊び」の様子からうかがえます。刻一刻と育っていく子どもの成長の場面に直接、触れられます。

◆仕事の能力アップ

- ・育児をするということは、親にとってもはじめての出来事が多く、思いどおりにいかないことが多いもの。また、限られた時間の中で焦ったり、突発的なことに驚かされることもたくさんあるでしょう。しかし、その経験が新しいことへのチャレンジ精神やタイムマネジメント能力、整理能力、状況判断力、危機管理能力など仕事にも生かせるたくさんの力につながっていきます。

◆第2子以降の出産

- ・「夫の休日の家事・育児時間が長いほど、第2子以降の生まれる割合が高くなる」というデータがあります。（厚生労働省「第6回 21世紀成年者縦断調査（平成21年）」）夫が育児に積極的であれば、他者の助けがあれば、「もう一人産んでみよう」という気持ちになるのかもしれませんが。

子育てに関わることは、こんなにメリットがいっぱい。仕事も子育ても楽しむライフスタイルを見つけ出してみませんか。